HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	青年期における宗教意識に関する実証的研究
Author(s)	中村, 陽三
Citation	基督教学, 12, 22-23
Issue Date	1977-07-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/46335
Type	article
File Information	12_22-23.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

青年期における宗教意識に関する実証的研究

中村陽三

(1) はじめに　筆者は先年、当学会で「クリスチャンパーソナリティ論形成への一試論」を発表し、青少年の人格形成のプロセスに於て占める宗教の役割について注目し、特にキリスト教的人格が教育的プロセスとして形成される人格心理学的理論について論じた。本調査報告はその理論に基づき、その後試みられた調査研究の蓄積の過程で、昭和四十九年及び昭和五十年の二ヵ年にわたり、何れも筆者が財団法人日本私学教育研究所の委託研究員として実施した実証研究の報告である。両調査の詳細は昭和四十九年調査については同研究所紀要 No. 10-(1), p. 355～374, 1975-3. 昭和五十年調査については同研究所紀要 No. 11-(1), p. 157～177, 1976-3. に記載されている。本報告は字数の制限があるので両調査の概要を記すにとどめたい。

(2) 昭和四十九年調査――青年期における宗教性の成長に関する実証的研究――北星学園における事例研究

〈調査意図〉 (1)中学高校でキリスト教による教育を受けた生徒が、短大又は大学に進んで大学レベルのキリスト教教育を通じ、宗教意識がどのようになっていくのかという宗教意識の成長過程をみる試み、(2)同一大学で非キリスト教系高校出身者と、キリスト教系高校出身者の間における宗教意識の比較分析の試み、(3)共学の大学生を調査することによって、宗教意識に性差による有意差がみられるかという性差による分析の試み。

〈調査対象〉 北星学園女子短大学生二三六人（一年生二二二人、二年生一一四人）と、北星学園大学二年生二三七人（男子六〇人、女子一七七人、非キリスト教系高校出身者一七九人、キリスト教系高校出身者五八人）とである。

〈調査分析〉 調査意図(1)については昭和四十八年実施の中高生調査の結果とほぼ同じ状況が、俗信的迷信的意識、一般的宗教意識、キリスト教的意識の何れの側面に於てもみられ、成長による変容をあまり受けていない事が分った。この事は中高時代の宗教教育が意識形成に大きな影響力をもっている事を示唆する資料となりうる。調査意図(2)については大学、短大共に、俗信的迷信的意識と一般的宗教意識間には特記するような有意差はみら

れなかったが、キリスト教的意識に於て両者間に明確な対照がよみとれ、教育的プロセスの相違による影響、つまりキリスト教系高校出身者にこの意識の肯定群がより多くあらわれた。調査意図(3)については、決定的な有意差はみられず、キリストの復活について男性がより肯定的にとらえている事を知り得た位である。

(3)昭和五十年調査――公立校生徒とキリスト教学校生徒との実証的比較研究

〈調査意図〉 (1)公立学校生徒とキリスト教系学校生徒間における宗教意識の比較分析の試み、(2)キリスト教系学校内における中学三年と高校三年との間における比較分析の試み。

〈調査対象〉 公立中学として札幌市立幌東中学校三年生三三三人、キリスト教系中学としては北星学園女子中学校三年生二〇一人、公立高校として札幌市立旭ヶ丘高校三年生三三九人、キリスト教系高校としては北星学園女子高校三年生二五三人である。

〈調査分析〉 調査意図(1)については、中学、高校共に両者、つまり、公立とキリスト教系との比較研究の結果として、俗信的意識では両者共に肯定的傾向が強く、反面、科学性を否定する迷信的意識では否定的傾向がよみとれた。又、一般的宗教意識及びキリスト教的意識の側面では、両者間に明確な対照がよみとれた。この対照が資料的に裏づけられた範囲では、宗教系学校の存在理由がある程度、確かめられたと判断してよいと思われる。調査意図(2)については、キリスト教意識をもつ者が、キリスト教系学校生徒の中で少ないということは昭和四十八年調査でも指摘したが、本調査では、その少ないキリスト教意識肯定群の中でも中学三年と高校三年との比較では、明らかに高校三年レベルで肯定群が減少している事を特記する必要がある。

(4) 昭和四十九、五十年調査よりの総括的結論

①両調査共、日本人の伝統的慣習の中に土着したと考えられる俗信的意識については、肯定群百分比に於て高率のものがあり、この意識については教育的プロセスによる成長による影響をあまり受けていないように考えられる。②宗教教育は若年齢に始めた方がより効果的であることが立証されたと考える。大学、短大、高校、中学の四つのグレードに対して同一調査票による調査を実施したが、キリスト教意識及び一般的宗教意識における明確な対比が下学年程顕著に現われていることはそのことを裏付けている。